



グリーンアドバイス

家庭菜園に挑戦

漬けてよし、煮てよし、焼いて良く、揚げ物、生食など、大変使い向きの広い野菜です。近ごろは干しナス、焼きナスにして保存ができることも分かり、いっそう魅力を高めてきました。

果菜類の中では成功率が高い方なので、家庭菜園にはぜひ取り入れて、色つやの良い良果を、秋までも収穫し続けたいものです。

性質は高温好みで、生長はゆっくり。種まきから開花まで60～70日もかかるので、通常は市販の苗を買い求めて栽培するのがお勧め。しかし、育苗コストがかさむので

小苗を買い求め、すぐに植え出すのは失敗のもと。一回り大きめの鉢に、良い用土を補い、鉢間を十分に与えて花が咲くまで2次育苗し、暖かくなってから畑に植え出すようにしましょう。

日光を受け気温が高まるとともに、ナスは紫黒色の形良い果実が続けて取れる

ナスは大苗に育て、健康診断に基づく管理で良果多収を

養失調」です。この状態をよく見定め、栄養診断し、早めに適切に対処することが重要です。

好ましい栄養状態は、茎が太く、葉は大きく厚みがあり、色良いこと、咲いた花の上には4～5枚の葉が開いていて、花は大きく、色濃く、おしべよりもめしべの方が長い（長花柱花）ことです。逆に、花は小さく、色深く、めしべが短く（短花柱花）おしべの中に隠れてしまっている状態は

購入苗の場合

小鉢の場合が多いので、大きめの鉢に植え替え育苗する



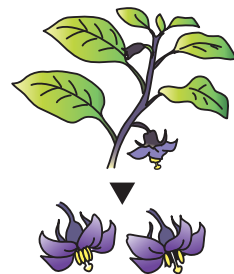
鉢間を十分に与えて、しっかりした苗に仕上げる



4～4.5号鉢

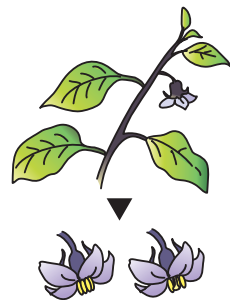
おしべよりもめしべの方が長い（長花柱花）ことです。逆に、花は小さく、色深く、めしべが短く（短花柱花）おしべの中に隠れてしまっている状態は

健全な育ち



めしべがおしべより長い（長花柱花）とよく実止まりする

栄養不良の育ち



めしべがおしべより短い（短花柱花）とほとんど落ちてしまう

ますが、やがて株の勢いが弱まり、実止まりが悪く、品質も低下し、早くも中だるみ気配となります。この現象はナスの一生のうちに3～4回現れます。その主因となるのは着果負担増大による「なり疲れ」と、肥料不足による「栄養失調」です。

栄養診断結果が不良な場合の対策としては、まず果実を思い切って若取りし、株の着果負担を軽くすることです。そして追肥で栄養を補給します。踏み固めた通路に根が張りやすいようくわを入れて通気を図り、乾いていたらかん水し、防乾の敷きわらを行います。

その他、生育盛りに入り茎葉が込み過ぎると日射不足のため果色が衰え、病害虫も出やすくなるので、適宜摘葉したり枝を整理することも大切です。7月下旬には思い切って枝を切り詰め更新剪定し、株の周りに堆肥や肥料を施し、おいしい秋ナス取りも狙いましょう。